

仮想発電所技術の活用による地域防災力強化・環境負荷低減に向けた取り組みの概要

【取り組み内容】

- ・ 太陽光発電設備（1カ所につき、出力10kW程度）と蓄電池（1カ所につき、容量15kWh程度）が設置されている仙台市内の指定避難所のうち25カ所を対象に、東北電力のVPP実証プロジェクトのシステムを用いて、対象施設の太陽光発電設備の発電電力量や蓄電池の残量等を常時監視
- ・ 防災機能を損なうことなく、気象状況や電力の使用状況等を踏まえながら、太陽光発電設備や蓄電池を最適に制御
- ・ 最適制御により集約したリソース（電力）の電力需給バランス調整機能としての活用可能性を検証
- ・ また、太陽光発電の余剰電力の有効活用や蓄電池の長寿命化を図る仕組み（防災環境配慮型エネルギーマネジメント）の構築に向けて検証

【検証期間】

2018年4月27日から2021年3月31日までの3年程度を予定

